



テーマで見る

京の年中行事

京都には、古くから季節の移ろいととも
に営まれる年中行事が多くあります。

京都のなかでも、地域や家庭でやり方
には違いがありそれぞれ大切に受け継が
れています。

ここでは京都で行われている年中行事の
一部をテーマで取り上げ、それぞれの行
事の由来や意味を紹介します。



1 五節句

上巳の節句（ひなかざり／ひなまつりの食事），端午の節句（菖蒲／薬玉／端午の節句のお菓子），七夕の節句（家庭での七夕／京の七夕），重陽の節句，人日の節句

2 季節を彩る

節分（家庭での節分／節分祭），花見（豊太閤花見行列），紅葉狩り（嵐山もみじ祭），夏越の祓（水無月），月見（月見団子／観月の夕べ），お火焚き（お火焚きのお菓子／お火焚き祭），大根焚き，冬至（ゆず風呂／かぼちゃ）

3 先祖を供養する

精霊迎え（お精霊さんのお膳／六道まいり／万灯会），精霊送り（五山の送り火）

4 町内を守る

地藏盆，大日盆

5 暮らしを守る

千日詣，初午，亥の子

6 子どもの成長を願う

十三まいり，七五三，成人式（上賀茂さんやれ）

7 年末年始

終い縁日，煤払い，大みそか（除夜の鐘／をけら詣り／年越しそば），お正月（初詣／祝い肴／お雑煮／書初め／根引松／恵方棚／注連かざり）

8 祭り

葵祭，祇園祭，時代祭，御田祭，ずいき祭

9 市民の行事

区民体育祭（運動会），五条坂陶器まつり

10 伝統芸能と行事

花街の踊り，おぼけ，八朔，大念仏狂言，薪能，吉例顔見世興行

ごせつく 五節句

五節句の「節」は季節の変わり目のことです。中国古代の思想では、奇数は縁起の良い数字とされていますが、重なると陽が強すぎて不吉になると考えられました。そこで、暦の中で奇数の重なる日を取り出して、季節の植物から生命力をもらい邪気を祓います。その風習が日本に伝わり、「節句」といわれるようになりました。



【上巳の節句】 (桃の節句)



上巳の節句の由来は、中国の故事といわれています。古代中国では上巳の日に川で身を清めて宴を催す習慣がありました。一方、日本では「雛遊び」があり、両者が結びついて身の厄災を紙や藁で作った形代や人形に移し川や海に流すようになりました。その名残で現代にも流し雛の風習が伝わります。後に日本ではひなまつりが行われるようになり、女の子の健やかな成長を祝う日となっています。

ひなかざり

ひな人形を飾るようになったのは、江戸時代からと伝えられています。ひなかざりの内裏雛は、京都では向かって右側に男雛、そしてその左側に女雛を飾るのが習わしです。これは君子は常に南側に面し、日の昇る東側に座るといふ宮中の儀式の並びに由来したものです。品のある顔立ちも京雛らしい特徴です。



ひなまつりの食事

ひなまつりでよく食べられるのが、ばらずしです。酢飯にかんぴょうや椎茸、高野豆腐などの具を混ぜ、湯葉か錦糸玉子をたっぷりとのせます。生の魚を使わないのが、京都の伝統です。また、宮中の儀式に用いられたいただきもちに由来する上生菓子「引千切」も親しまれています。小餅を引きちぎったような形からそう呼ばれます。



京の年中行事 クイズ

知っているようで知らない年中行事。
クイズを楽しみながら、
それぞれの行事についての知識を広げるコーナーです。
是非チャレンジしてください。

【端午の節句】 (菖蒲の節句)

5/5

端午の節句の由来は、中国から伝来した行事です。旧暦の5月は雨季で悪病のはやる時期でもあり、香り高い菖蒲や蓬などで厄祓いをしていました。江戸時代になると、菖蒲を武道を重んじる「尚武」という言葉にかけて武家の行事となりました。さらに男の子の誕生と成長を祝う行事に変化して、いまに伝わっています。

菖蒲

菖蒲には邪気を祓う力があるとされ、家々の軒端に菖蒲を挿し、菖蒲の葉と根を入れて沸かす菖蒲湯に入ることによって不浄を祓います。



軒端の菖蒲



菖蒲と蓬

薬玉

麝香や沈香などの薬香料を玉にしたものを錦の袋に入れ菖蒲や蓬などを結びつけて柱につるし、邪気祓いと長寿を祈願します。五色の糸や花で飾り付けます。祝い事で用いられる薬玉はこれに似せて作ったものです。



端午の節句のお菓子

古くは邪気を祓うとされる茅で包まれていたちまきや子孫繁栄の縁起があるとされる柏の葉を使う柏餅。京都では白味噌を入れた柏餅も好まれます。



ちまき



柏餅

私にとっての年中行事

ていひまき



京の年中行事
クイズ

Q1

ひなまつりのお膳では欠かせないすまし汁に入れる貝で、栄養価の高い旬の食材とは次のうちどれでしょうか？

- ① ハマグリ ② シジミ ③ アサリ ④ アカガイ

【七夕の節句】 (笹の節句)



七夕の節句の由来は、中国に古くから伝わる織姫と彦星の伝説です。それが機を織り祖霊に捧げる棚機たなばたという日本古来の行事と結びついたといわれています。中国には、竹竿に糸をかけて裁縫や習字の上達を星に祈る乞巧奠きっこうでんの習わしがあり、平安貴族たちがこれをまねて、彦星を運ぶ舟の舵と同じ読みの梶かじの葉に、和歌を書いて願い事をしました。



乞巧奠



梶の葉

家庭での七夕

諸芸上達の願いを、短冊にしたため、笹につるすようになったのは江戸時代から。いまでは芸事だけではなく、さまざまな願い事が書かれています。また、一緒に笹につるす飾りには、裁縫の上達を願う紙衣かみこや吹き流し、長寿を願う折鶴などそれぞれに意味を持っています。



京の七夕

8月

京都の新たな夏の風物詩

旧暦の七夕にあたる8月に、「祈り」や「願い」をテーマに鴨川、堀川など、京都の各会場で催しが行われます。



堀川会場



北野天満宮

Q1の
こたえ

① ハマグリ

ハマグリの潮汁うしおじるは、上巳の節句（ひなまつり）における縁起料理。対になった貝殻以外は合わないことから、相性の良い人との出会いを意味するとされています。

【重陽の節句】 (菊の節句)



中国古代の思想の中で1番大きな陽数「9」が重なる日を、陽が重なりと書いて「重陽の節句」と定め、不老長寿を願ったことから始まります。中国では、菊酒を飲んだりして邪気を祓い長命を願う風習がありました。このように菊の長寿の効を尊ぶ思想を受け、菊の節句ともいわれています。平安時代の宮中には菊の花に真綿を被せ、翌朝に朝露を含んだ綿で体をぬぐって無病息災を願う「菊の着綿」の風習があり、京都を中心に、現代でも受け継がれています。



菊の着綿

【人日の節句】 (七草の節句)



古代中国では、正月元旦を鶏、そして6日までをさまざまな動物を占う日としていて、人を占う日にあたる7日目には、邪気を祓うため、7種の野菜を入れた汁物を食べたとされます。それが日本にも伝わり、芹、薺（ペンペン草）、御形（母子草）、繁縷（ハコベ）、仏の座（田平子）、菘（蕪）、蘿蔔（大根）の七草を、前日に嘸し歌を歌いながらまな板の上で叩き、当日の朝に粥に入れて食べるようになりました。



七草粥

私にとっての年中行事
辻ヒロミ

私にとって、人日の節句といえば **七草粥**

この時期にしか店頭には並ばない、春の七草パック売りがとても好きです。

一月七日、朝の光に立ちのぼる七草粥の湯気の清らかさ。

毎日でも食べたいっ！

京の年中行事 Q2

七草粥は、元々中国にあった1月7日に汁物を食する風習が、小正月に粥を食べる日本の風習と結びついたといわれています。その日本の粥とは次のうちどれでしょうか？

- ① 芋粥 ② 白粥 ③ 小豆粥 ④ 粟粥

季節を彩る

京都は三方を山に囲まれた盆地で、夏は暑く、冬は底冷えし、穏やかな春と秋が浮かび上がる、四季のはっきりとした特有の風土をもっています。季節の変わり目には厄を祓い、春には桜を、秋には紅葉を愛でるといった暮らしの彩りが、四季の移ろいを感じられる年中行事としていまに伝わっています。



【節分】 $\frac{2}{3}$

古代中国で旧暦の大晦日に行われていた「追儺」という邪気祓いが、平安時代に宮中行事として取り入れられました。日本では、「雑節」という気候風土に合わせた暦が考え出され、季節の変わり目の節分は本来、立春、立夏、立秋、立冬の前日を指します。その中でも旧暦において新年を迎える立春の前日である節分には、禍をもたらす鬼を追い払う行事が定着していきました。

家庭での節分

家庭では、邪気祓いとして大豆を炒った「福豆」をまき、焼いた鰯の頭を刺した柗の枝を家の門口に立てて魔除けにします。鬼は鰯の匂いや柗のトゲのある葉を嫌うとされ、鬼を追い払うことで新たな1年の無病息災を祈ります。



福豆



柗鰯

節分祭

節分祭は市内各地の社寺で行われています。吉田神社の節分祭は、邪気を見抜く力を持つとされる四つ目の面を付けた「方相氏^{ほうそうし}」が矛と盾を手に暴れている鬼を追い詰め、徐々に弱らせていきます。



吉田神社

Q2の
こたえ

③ 小豆粥

日本では、小正月の1月15日に邪気を祓い、一年の健康を願って小豆粥を食べる風習が伝わります。

【花見】

春の京都は、平安神宮の紅枝垂や、哲学の道の染井吉野など、異なる趣の桜が各所で咲き誇ります。平安時代の昔より、遊山としての花見もまた年中行事として受け継がれています。



ほうたいこうはな みぎょうれつ 豊太閤花見行列



醍醐寺

豊臣秀吉が淀君や女房衆を率いて盛大に開いた「醍醐の花見」を再現した行事。桃山時代の装束をまとった行列が練り歩きます。

【紅葉狩り】

紅葉を詠んだ歌が多く残されているほど、古くから紅葉は愛でられてきました。山々の錦秋の彩りと、社寺などの紅葉が織りなす色彩のコントラストは、京都ならではの美しさです。



あらしやま まつり 嵐山もみじ祭



嵐山小倉山の紅葉の美しさを讃えるとともに、一帯の豊かな史跡や文化を伝えるため、能楽・舞楽などの技を競う芸能舟や社寺の舟が大堰川を上り下りして盛り上げます。

私にとつての年中行事

ホリグチイッ



京の年中行事 クイズ

Q3

節分など、日本で生まれた雑節は、貴族や武家の儀式ではなく、主に農作業と照らし合わせた季節の目安となってきました。次のうち雑節でないものはどれでしょうか？

- ① 彼岸 ② 雨水 ③ 八十八夜 ④ 土用

なごしはらえ
【夏越の祓】

6/30

6月と12月の末日には、半年の厄を祓い、次の半年を無病息災で過ごせるように祈願する行事「大祓」が行われます。6月に行われる「大祓」を「夏越の祓」と呼び、寺社では、厄除けの呪力があるといわれる茅で作られた大きな輪が飾られます。茅の輪をくぐることで悪疫を退けることができるといわれます。また、人形に名前を記し、けがれを移して、身代わりとして川に流して厄やけがれを祓い清めることで、これからの半年間の無病息災を祈願します。



上賀茂神社

やってみよう
年中行事

茅の輪くぐりをやってみよう



※茅の輪のくぐり方は神社によって作法が異なります。

みなづき
水無月

夏越の祓に食べる水無月は、三角形の^{ういろうきじ}外郎生地ウイロウキジに小豆をのせた和菓子です。上部の小豆は悪魔払いの意味があり、三角の形は暑気を払う氷を表しています。宮中で旧暦6月1日の「氷の節供」に、氷室から取り寄せた氷を口にして暑気を払ったことに由来し、貴重な氷が菓子としてかたどられるようになりました。



やってみよう
年中行事

電子レンジを使った
かんたん水無月を作ろう

【材料】

- | | |
|-------------|----------|
| 小麦粉（薄力粉）80g | 砂糖80g |
| 片栗粉 10g | 水 300cc |
| 餅粉 10g | 小豆鹿の子 適量 |

- ① 粉と砂糖をすべてふるいにかき、ボールに入れ混ぜ合わせる。
- ② 水を①のボールにかき混ぜながら加える。
- ③ 上部分をカットした牛乳パックに②を少し残し、流し入れる。
- ④ 600Wの電子レンジで約3分加熱。まだ液体の箇所があればさらに30秒加熱。
- ⑤ 少し残しておいた②をすべて流して、小豆鹿の子を入れる。
- ⑥ 約1分電子レンジで加熱。

Q3の
こたえ

② 雨水

彼岸は、春分と秋分をそれぞれ中日とする7日間、八十八夜は、立春から88日目、土用は、立春、立夏、立秋、立冬の前の18日間をいいます。雨水は二十四節気の一つ。

【月見】

9,10
月頃

中国より伝わった観月の宴で、平安期の宮中で盛んに行われていました。庶民には収穫祭として親しまれるようになり、旧暦8月の十五夜月（中秋の名月）を、豊作祈願で供えた芋から「芋名月」と呼び、旧暦9月の十三夜月には、食べごろになった栗や枝豆を供えて「栗名月」、「豆名月」と呼んでそれぞれを祝いました。

月見団子

収穫の感謝を表わし、満ちた月を模した丸い団子をお供えます。京都では、十五夜に里芋を供える風習から、里芋の形を模した月見団子もよく用いられます。小豆を使うことで邪気を祓うといわれます。



かんげつ ゆう

観月の夕べ

嵯峨天皇が中秋の名月に催した舟遊びにちなんだ行事。和歌にも詠まれてきた景勝地である大沢池に、2隻の籠りゅう頭舟・鶴首舟が浮かべられ、夜空に浮かぶ月と水面に映る月の両方を鑑賞することのできる風流な催しです。



大覚寺

私にとつての年中行事

ホリグチイツ



京の年中行事

クイズ

Q4

水無月や月見団子など、季節にちなんだ菓子はたくさんあります。次の月と菓子の組み合わせのうち間違っているものはどれでしょうか？

- ① 1月 はなびら餅 ② 3月 菱餅 ③ 5月 かしわ餅 ④ 7月 亥の子餅

【お火焚き】

10~12月頃

江戸時代から受け継がれる行事で、由来は諸説あり、もとは宮中の催事・新嘗祭（収穫祭）が民間に広まったものともいわれています。また、太陽光の力が1年で最も弱まる冬至に合わせ、その復活を願ったことに由来するともいわれています。

お火焚きのお菓子

お火焚き行事では独特のお菓子が供えられます。火炎紋の焼印が押され、厄除け招福の願いが込められたお火焚きまんじゅうやその年の新米でつくられる三角おこし、残り火で焼いた焼みかんがみられ、食すと1年間風邪をひかないとされています。



お火焚きまんじゅう



三角おこし

お火焚き祭

「おしたき」とも呼ばれ、かつては、各町内や家々でも多く行われていましたが、現在は社寺でのお火焚き祭が主となりました。行事の内容は社寺によりさまざまですが、その年の稲藁や護摩木を焚いて、無病息災や火除けを祈ります。



町内のお火焚き

【大根焚き】

12月頃

冬の風物詩・大根焚き。千本釈迦堂（大報恩寺）では、諸悪病を取り除き健康増進を願う行事として、法要後、煮込んだ大根を楽しむ人々の姿が見られます。その由来は鎌倉時代、慈禅上人が、大根の切り口に梵字を書き、魔除けとしたことにあるとされます。他にも、了徳寺など多くの寺院で大根焚きが行われます。



千本釈迦堂



Q4の
こたえ

④ 7月 亥の子餅

亥の子餅は旧暦10月（11月頃）の亥の日に、多産のイノシシにあやかり、無病息災と子孫繁栄を願って食べる菓子です。

【冬至】

12/22頃

冬至は、1年で最も日が短く、夜が長い日のことです。古くは暦がこの日から始まり、万物全てが蘇生するという考え方もありました。そして、枯渇したエネルギーを再生させ、新たな命を生み出すこの冬至の日に合わせ無病息災を祈る、という考えから、邪気を祓うための習わしが生まれました。

ゆず風呂

黄色という色や香りに邪気を祓う力があるともいわれるゆず。「陰」が極まり再び力が上昇する“一陽来復”の冬至に際して、無病息災を祈り、邪気を祓うための習わしが生まれました。江戸時代に「融通」をきかせるという言葉遊びから銭湯の客寄せとして始まったとされますが、入れば1年風邪知らずともいわれます。



かぼちゃ

冬至に「ん」が2つつくものを食べると出世するなど、縁起が良いと伝えられています。「南瓜」ともいうかぼちゃもその1つ。この日に食べると中風や風邪にかからず、1年を無病息災で過ごせるといわれています。



鹿ヶ谷かぼちゃ



かぼちゃの炊いたん

私にとっての年中行事

ていじまき

毎年
ゆず風呂に浸かりつつ
ゆずで遊ぶのが
何才になってもやめられない!!
最終的にゆずを握りつぶしてしま
ゆずエキスイっぱいの湯船に……♡
それもまたええ匂いがしていいもん
ですよ



京の年中行事

クイズ

Q5

冬至に食べる「ん」が2つつく7つの食べ物のことを、冬至の七種ななくさといいます。

次のうち冬至の七種でないものはどれでしょうか？

- ① れんこん
- ② にんじん
- ③ でんぷん
- ④ かんてん

先祖を供養する

春と秋のお彼岸など、一年の折々にご先祖様を供養する伝統行事が行われます。なかでも8月にあるのが、ご先祖様の霊である「お精霊さん」をお迎えする盂蘭盆。京都では、六道まいるの鐘をついてお精霊さんを迎え、送り火をたいて送ります。五山の送り火もその代表です。山々に火を灯してご先祖様の冥福をお祈りする大切な1日です。



【精霊迎え】 8月

その名の通り、あの世からお精霊さんをお迎えする精霊迎え。その由来は、盂蘭盆が近づく頃に先祖の霊を山や野に迎えに行った風習にあります。平安時代の京都では、平安京の東の鳥辺野、北の紫野、西の化野など、周囲の野に死者を埋葬しました。そして野の灌木を手折って、それに霊を乗せて連れ帰ってきたのです。現在の京都の人々は、仏壇を磨き供物や仏花を供えてから、六道珍皇寺や千本ゑんま堂（引接寺）、伏見観音寺などへお精霊さんを迎えにいきます。

お精霊さんのお膳

大切にご先祖様を思ってお供えする真心の料理

お盆の間は、毎日お団子やお膳をお供えしてご先祖様をもてなします。京都では、まずは12日にお団子でお出迎え。13日から15日までは、精進料理をご先祖様にお供えするとともに家族の夕餼としました。また午後3時には、「けんずい」と呼ばれるおやつもお供えます。宗派や家々によって違いはありますが、ご先祖様への思いが込められています。



Q5の こたえ

③ でんぷん

冬至の七種には、中風除けとされる南瓜（なんきん）のほか、れんこん、にんじん、ぎんなん、きんかん、かんでん、うどん（うどん）があります。

【行事例】

ろくどう

六道まいり

8/7
~10

現世と冥界の分かれ道にて ご先祖様をお迎えする

六道まいりはお盆を迎えるにあたり、死者が転生するという6つの世界を巡るご先祖様の精霊を私たちの世界にお迎えする行事のことです。六道珍皇寺はかつて葬送地であった鳥辺野に近く、「六道の辻」とも呼ばれて、現世と冥界の境とされてきました。小野篁が境内の井戸から高野槇の枝をつたって冥界へ赴いたという伝説に基づき、人々は梵鐘を鳴らしてご先祖様を冥界より迎え、高野槇に精霊を乗せ家路へと急ぎます。



六道珍皇寺

【行事例】

まんとう え

万灯会

8月

千の灯籠を背景に披露される 伝統の六斎念仏

万灯会とは、たくさんの灯明でご先祖様を供養する集会のことで、多くの寺社で行われます。壬生寺の「盂蘭盆万灯供養会」では、本堂前を約1,200もの灯籠が埋め尽くし、灯籠の光の壁を背景にして、伝統の「六斎念仏」(8月9・16日)が奉納されます。



壬生寺



京の年中行事

クイズ

Q6

仏教では死者が転生するという6つの世界のことを六道といいます。次のうち六道ではないのはどれでしょうか？

- ① 修羅道 ② 閻魔道 ③ 餓鬼道 ④ 地獄道

しょうらい おく
【精霊送り】

8月

たくさんの松明を焚いてあの世への道しるべとする盆の民俗行事は全国各地で見られますが、松明を山々に灯したのが京都ならではの精霊送りです。京都の各家庭では、あらめを炊いて、送り団子をお供えます。あらめのゆで汁を門口にまくと、お精霊さんは未練を残さず浄土に帰ると伝えられています。

【行事例】

ござん おく び
五山の送り火

8/16



船形万燈籠送り火



松ヶ崎妙法送り火



大文字送り火



左大文字送り火



鳥居形松明送り火

あの世へ帰っていくお精霊さんが道に迷わないように、山々に道しるべのように炎を燃え上がらせる……。起源は諸説ありますが、そのような意味も込められている京都の夏の伝統行事が、五山の送り火です。午後8時に銀閣寺近くの「大」の字が燃え上がると、続いて松ヶ崎の「妙法」、西賀茂の「船形」、金閣寺近くの「左大文字」、嵯峨の「鳥居形」の東から西の順で火が灯っていきます。京都の人々に夏の終わりを告げる行事でもあります。

私にとっての年中行事
ひがしのえみこ

私にとっての五山の送り火は
大雨でも決行される五山の送り火





「送り火の近くに住んでいた頃、どしゃ降りの中、点火の役目を終えた近所さんが帰ってくるのを見かけたから、雨の日の送り火には、いっしょに「か」キ打たれます！」

Q6の
こたえ

② 閻魔道

六道には、天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道の6つがあるとされます。